

神山の皆さんとほんのひろば

鬼籠野・高橋さんご一家
稔郎さん、敦子さん、義雅さん、智晃さん、信晴さん



それぞれ好きな本を持って。

鬼籠野にお住いの高橋さんは家族みんなではんのひろばを利用されています。最初にほんのひろばに来られたのは、町内の2つの中学校が統合された頃に遡ります。国語の先生である稔郎さんが2校の図書の本の整理を行ない、重複して学校図書館に収めなかった本を「廃棄するでもいいんですけど、まだ綺麗な本もあるし」と、ほんのひろばに譲って

くださったのです。稔郎さんは当時のほんのひろばに本が少ない状態をご存じなので、「最近来てみると、最初の頃よりかなり充実したなあ。」と言っていました。

一 皆さんが本のひろばをどのように利用されているか、どんな風に過ごしているか教えていただきました。次男の智晃さんと三男の信晴さんの好きな本は『はたらく細胞』。お母さんの敦子さんが、「ほんのひろばに来ると）必ずあそこへ行って、1巻～3巻借りて、それ返して4巻5巻を借りて、ずっと借りていると他の人が読めなくなるので。3回転くらい借りてましたね。それで『はたらく細胞』シリーズが気に入って、その図鑑をおうちで買って、何を勉強してもいいっていう自主勉強でその図鑑をみながら勉強して、学校に提出しているっていう。あれが一番お気に入りやな。」

敦子さんは4年ほど前、神領小学校に読み聞かせに行くためにほんのひろばでよく本を借りたそうです。「見開きのかわいい世界のお店やさんの本(注)、あんなの子ども達に好評でした。」長男の義雅さんはここにくと「そのへんで適当な本を読んで

ます。」稔郎さんは「本探して、読める本は読む。本は好きなので、どんな本があるのかなと、とりあえず全部見とかな。」皆さんそれぞれの過ごし方をされています。「ほんのひろばは活用しようと思ったらいろんな場面で活用できる場所。あるのとないとでは全然違いますよね。」とは敦子さん。7月の「コーヒーとほんのひろば」にもご一家で来ていただきました。「そう、コーヒー飲みに行くと、一応にぎわいに行ってみようかなって思っ。そしたらにぎわいまくってました(笑)」と稔郎さん。

一 最後に、今後ほんのひろばに期待することを教えてくださいました。

智晃さんは『かいけつゾロリ』、信晴さんは『鬼滅の刃』、義雅さんは「中学が近いんで参考書とかを置いたら帰りに寄って借りられるんじゃないか。」これから大きく開きゆく、瑞々しい若葉のごとき皆さんからのリクエスト、しかと承りました!町の皆さんにもっと活用してもらえよう、これからも頑張ります。(注):『パノラマせかいのおしごと』てつかあけみ、ココロ株式会社

連載1 最近の KAIR (神山アーティスト・イン・レジデンス)

夏本番。緑陰のアートウォークへ出かけませんか

この時期こそ、ぜひおすすめしたいのが、大栗山アートウォークの散策です。暑い日差しを遮る木々のあいだを登れば、標高250メートルの大栗山の頂上、通称・天辺丸(てんべんまる)が見えてきます。木漏れ日が涼しく、ピクニックにもってこいの気持ちの良い空間が広がっています。そこでは、前号(グリーンバレージャーナル8月号 vol.10)「神山から世界へ」でご紹介したイヴァン・フアレス(2017年招聘アーティスト)の作品などがご覧いただけます。大栗山アートマップは、農村環境改善センターなどで入手可能です。お出かけの際は、動きやすい服装で(足元は運動靴に長めの靴下)水分補給を欠かさずに、虫よけグッズを準備して行ってください!午前中の散策がおすすめです。



イヴァン・フアレス Ivan Juarez << IN BETWEEN - hinoki + sugi pavilion - >> 2017 写真提供:イヴァン・フアレス

表紙 「天地始肅」 撮影:生津勝隆

長く、暑かった令和2年の夏もようやく終わりを告げる頃、神領大埜地の文化橋より鮎喰川を望む。土地の方に、「徳島では沈下橋のことを潜水橋言うんよ」と教わった。

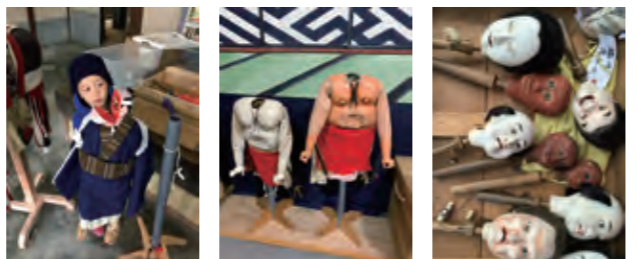


神山のサポートについて
グリーンバレーの活動は、皆様からのご支援によって支えられています。私達の活動にご賛同いただき、暖かいご支援をぜひお願いいたします。詳しくは以下のページをご覧ください。
<https://www.in-kamiyama.jp/donation-to-greenvalley>

連載2 GVメンバーリレー

糸井 恵理 (神山アーティスト・イン・レジデンス担当)

2010年春、神山へ移住して間もなく、地元の阿波人形浄瑠璃・寄井座の練習を見学に行きました。三味線と、太夫が語る浄瑠璃に合わせて表現する木遣(でこ)人形に心をぐわっと奪われ、その日のうちに入座の申込をしました。以来、毎週土曜夜の練習に通いながら、主に県内での公演に定期的に出演しています。寄井座に入りたいです!と唐突に申し出てから早11年、少しは頼れる座員になれましたでしょうか...。寄井座の皆さんには人形以外のところでも大変お世話になっております。この場を借りてお礼申し上げます!人前に出ることは得意ではありませんが、黒子を着て影になり、三人遣いで人形を操作し、三味線と太夫と一体になって演じるのはとても、とても楽しいです。入座当時は座員が16名ほどおり、人形が何体も登場する大きな演目を行う機会が多かったです。最初の数年はもちろん役はもらえず、ひたすら黒子(人形操作以外の、小道具を扱う役回り)と足遣いの練習が続きましたが、そのうち主遣い(頭・胴・右手)を任せてもらえるようになりました。ずっとこのまま足遣いだけをやりたいと思うほど、大好きな役でしたが、主遣いには何ものにも代え難い面白さがあり、もっと人形が好きになりました。同時に難しさをひしひしと感じている毎日です。寄井座では座員を募集しています。興味のある方、練習見学ご希望の方は下記までまでご連絡ください!
itoe.e@in-kamiyama.jp (GV糸井)



0歳から人形に慣れ親しんでいる息子。練習や公演と一緒に参加し背中を見せたつもりでしたが、ぼく人形はやらん、との事。気長に待ってます! (左) 初代天狗久作「ハダカ」生写朝顔話(しょうつあさがおぼなし) 大井川の段で登場する川越人足の胴(中) 毎年恒例の虫干しで蔵に保管されている頭や着物の数々が日様の下に並び、1年に1度しかお目にかかれない物もたくさんあるのです。(右)

発行/お問い合わせ
認定特定非営利活動法人グリーンバレー
<https://www.in-kamiyama.jp/npo-gv/>
MAIL: greenvalley@in-kamiyama.jp
〒771-3310 徳島県名西郡神山町神領字中津132
TEL: 088-676-1178
(編集: ニイチトセ)



GREENVALLEY JOURNAL

September 2020 vol.11



山あいの町であなたと本をつなぎたい「ほんのひろば」

山あいの町であなたと本をつなぎたい 「ほんのひろば」

ほんのひろばの基本情報

場所	神山町農村環境改善センター 1階と2階
開館時間	8:30~17:30 ほぼ年中無休(年末年始のみお休み)
貸出と返却について	<ul style="list-style-type: none"> ●借りたい本を持って1階の事務室にお越しください。 ●貸出簿に必要事項を記入していただきます。 ●貸出期間は1カ月、期限内に連絡をいただければもう1カ月延長できます。 ●何冊でも借られます。

ほんのひろばのあゆみ

神山町に本が好きなのは以前からでしたが、町民に対して開かれた、本に関する活動として2017年にほんのひろばメンバーの3人が集まり、農村環境改善センター1階奥のスペースの整理に着手しました。また、神山町教育委員会と徳島県立図書館から協力をいただき、県立図書館で廃棄予定の本を譲り受け、ほんのひろばに配架することができるようになりました。まずは絵本を中心に蔵書を増やしました。しばらくして神山町人権推進協議会から「多くの人が絵本に触れるきっかけになれば」と大型絵本を寄贈いただき、読み聞かせ講座を開催。大型絵本とは、ハンディサイズのベストセラー絵本をそのまま巨大にしたものです。高価で手に入れることが難しかった大型絵本の寄贈は、予算もなかった担当メンバーにとって本当に大きな一歩でした。

やがて2018年、GV理事会にて正式に活動への後押しを得て予算をつけてもらえるようになり、払下げだけでは入手できない絵本を買い揃えることができるようになりました。徳島市内にある「こどものとも社」という絵本とこどものおもちゃを専門に扱う店舗に出向き、予算の中でやりくりしながらメンバーと一緒に絵本を選んでいくときは、本当に嬉しい瞬間でした。



ある日の購入書籍。充実させたいジャンルや手薄なジャンルなど、毎回考えて選んでいる。 町内の人から寄贈していただいた『風の谷のナウシカ』全巻セット。

その予算から什器も充実させることができました。一番の買い物は図書館や書店などで使う本専用のブックトラックです。本は紙なので、たくさんになるとすごく重い。改善センター1階のほんのひろばの書庫は2階にあり、1階と2階を行き来することが多いのです。それまでは箱に入れて台車に積んで運んでいましたが、ブックトラックのおかげで負担なく楽々移動させることができるようになったのです。

ほんのひろばには、冬はこたつが、夏は転がるマットが出現します。そのこたつも、木でできたオールドスタイルな卓上本棚も、自習にちょうどよいスチールデスクも、語らいにぴったりの丸いテーブルも、どれも人から譲っていただいたものです。新型コロナウイルスの感染拡大防止期間は町民の皆さまにはほんのひろばに来ていただくことができなくなりました。そのことは非常に寂しいことでしたが、その間に今ある什器を使ったよりよい配置を検討し、新しい使い方を検討しました。お金をかけずに良い場所づくりをするコツは焦らないこと。ゆっくりですが、過ごしやすい空間になってきています。

ほんのひろばの活動

アニメーションイベント

徳島市立図書館(現:はこらいふ図書館)の副館長である廣澤貴理子氏ともご縁ができ、「読書のアニメーション」を教えてくださいました。読書のアニメーションとは、1人1人が本を読むことを励まし、読書を通して魂をいきいきとさせる取り組みのことです。2017年には、「神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)」の展覧会期間に併せて「隠された図書館」を舞台に、森に市場をつくるアニメーションイベントも開催。森や、木や、森の市場を題材にした絵本のアニメーションでイメージを膨らませ、参加者の皆さん全員で「こんなお店があったらいいな」と想像した絵を描いてひとりひとり発表しました。お店を描くとき子どもたちが熱中していたのが印象に残り、企画メンバーにとってもそれは忘れがたいひとときとなりました。



2017年11月3日、紅葉がとても美しい秋の日だった。



徳島市立図書館(現:はこらいふ図書館)副館長、廣澤貴理子さんのアニメーション。



森の中に行む「隠された図書館」。冬はストーブを焚いて過ごせる。

読書室活動

徳島県立図書館には、協力貸出という制度があります。これは、広く公に開かれた企画や催しをする際に、まとまった数の本を借り受けができるというもの。ちょうど神山に開かれた文化施設、「鮎喰川コモン」に読書推進の機能が検討され始めた時期と重なり、「一般社団法人神山つなぐ公社」と共同で、神領上角にあるスペース(旧JA購買所)で、月に一度、週末だけの読書室を開催しました。県立図書館で選書し、その時々テーマに沿った本を300~600冊程度を借りて並べました。主催は、つなぐ公社やほんのひろばでしたが、準備や片づけなどは、メールで呼びかけた町の協力者の皆さんが担当しました。ほんのひろばにはないジャンルの本が並ぶことで、新鮮に本を楽しめた企画で、ほんのひろばのさらなる広がりとも可能性を感じられる機会となりました。



中古で譲っていただいた本は書架に出す前にクリーニングを行う。

この2,3年の「ほんのひろば」に起きた具体的な出来事を、メンバーの3人に振り返ってもらいましょう。

この2,3年取り組んできたことは?

改善センターに検診に来られる保護者や子どもたちが本に触れられる機会が作れたらと思っていました。我々は本が好きでし、そのような場所を作るのにちょうどいいスペースが改善センターにはありました。ただ予算も人員も時間もなかったで、なるべく手をかけずに、最低限の労力でうまく維持できるように動いてきました。GVの普段の業務をこなした上で取り組むべきものなので、手をかけるには効率を良く

町民と本が創る場所

「ほんのひろば」は、グリーンバレー(GV)の担当、市脇和江と河野定子、そして神山町在住の駒形良介氏がメインメンバーとなって活動する神山町の読書室です。神山町には図書館がないため、ほんのひろばが町民の皆さんのいこいの場になりつつあるとともに、知識と文化が育まれるきっかけの場となっています。

する必要があったからです。やがて県立図書館の協力を得て、まずはメインターゲットである保護者と小さい子ども向けの絵本を集め始めました。県立図書館からの払下げの際は普段は入ることのできない書庫に入ることができます。初めて行く日はドキドキしながら足を踏み入れました。「この本も、この本も、譲っていただけるなんて!」と胸が躍ったのを覚えています。



ほんのひろばの運営を担当する市脇和江と河野定子。

町に変化はありましたか?

神山町には図書館がありません。ですから図書館に行ったり本を読む習慣がない人はなかなか足が向かないのは仕方ないことです。しかし、自分も行かなくても子どもたちには必要だと言って応援してくださいの方がたくさんいらっしゃるようになりました。何か活動を応援しようとする時、それが直接自分たちに寄与するものでなければ応援することは難しいのにも関わらず、です。応援してくださる大人の皆さんの存在に励まされます。実際に目にする利用者の方々も増えてきました。そこに、ほんのひろばの活動と、町の未来、ひいては人類の未来への小さな希望を感じます。



ほんのひろばからの風景。

「きいろいくまのふわもちマスコット、800円」様々なグッズを作って販売し、新しい本を買う資金にあてている。



これまで町外での生活の中で図書館を利用してきた移住者の皆さんは、移住相談で訪れる段階からほんのひろばを自然に利用しています。また、徐々に地元の子育て世代の方々も訪れてくださるようになり、最初は子ども自身の好みの本や、少し大きくなった自分の子どものために借りられることも増えてきました。これは非常に嬉しいことです。誰も訪れることがなかった最初のうちは、整備し続けられる自己満足に助けられ

「ほんのひろば」
イン神山 Facebook



神領寄井にある豆ちよ出張所。

上分出張所の本棚。小説を中心に絵本も置いている。

魚屋文具店出張所。文房具屋さんによく馴染む。

これからのほんのひろば

現在は、今までこつこつとやってきた本の貸し出し活動の利用者が少しずつ増えてきており、イベント開催などで、本のある場所に人がたくさん集まっている状況も作ることができています。日常的に子どもたちが「ほんのひろばに行きたい!」と思うような場所、集まってきた子育て世代がコミュニティの場として利用してくれるような状況が生まれているのが担当者には嬉しく、活動に力が入ります。興味関心を持ち寄って楽しむことができるのが本の魅力であり、人と人をつなげる力が本にあります。最近では、新型コロナウイルスの影響で、ほんのひろばで長く過ごしてもらえない期間もありました。それ自体は残念でしたが、本を借りに来てくれた利用者がありました。このような状況下でも本が必要とされたことに運営者として励まされたと、市脇さんは言います。ほんのひろば運営チームは、本を介して様々な世界への興味が広がっていく、そんな経験のお手伝いができたらと、これからも心を込めてワクワクしながら運営を続けていきます。

<こぼれ話>

改善センターでの幼児健診の後、保護者と保健師さんが育児指導をしているあいだ、時間を持て余した子どもが自らの意思で「ほんのひろば」を訪れてくれたことに心が温かくなりました。



7月の「コーヒー」とほんのひろば、オープン直後の朝10時過ぎのほんのひろばの様子。